

IV 本プロジェクト推進に向けた各機関における体制づくり

本プロジェクトの実施にあたっては、各学校、家庭・地域、教育行政がそれぞれの特性を生かして、以下のような組織体制づくりや事業を積極的に推進する。

1 各学校

(1) 幼稚園

- 生きる力の基礎を育むことをめざす創意ある教育課程の編成・実施
- 幼児一人一人の実態を把握し、発達に必要な経験が得られる指導計画の作成
- 幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を具体的にイメージした保育の工夫改善

(2) 小・中学校

- 生きる力を育み、創意工夫を生かした教育課程の編成・実施
- 研修成果の共有化と波及させることができる研修システムの構築
- 主体的な研究や研修への参画による教師の授業力の向上

(3) 高等学校

- 生きる力を育み、創意工夫を生かした特色ある教育活動の展開
- 言語活動の位置付けや言語活動を通して身に付けさせたい能力や態度（目標・ねらい）の明確化を図り、共通実践につなげる各教科の年間指導計画等の作成

(4) 特別支援学校

- 障害の状態、発達の段階及び特性等を考慮し、生きる力を育み、創意工夫を生かした特色ある教育課程の編成
- 個々の幼児児童生徒の障害の状態及び発達段階、特性等を的確に把握し、教師間の連携協力のもとに指導目標や学習内容を設定した個別の指導計画の充実

2 家庭・地域

- 「家（や）～なれ～運動」の推進による基本的な生活習慣の確立
 - ・「早寝・早起き・朝ごはん」の徹底
 - ・家庭における読書活動の推進
 - ・家庭学習の習慣化の推進
 - ・あいさつや家庭内ルールづくり
 - ・体験活動の充実 など
- 地域ボランティア等による学校の教育活動の支援
- 地域活動の活性化（子ども会・地域行事への参加など）



3 教育行政

(1) 県教育庁

- 各種研修会等の実施
- 学校支援訪問・授業改善推進教師の活用・ブロック型研究会の実施
- 健康の保持増進と体力の向上の推進
- 「家（や）～なれ～運動」（親のまなびあいプログラム等）の推進

(2) 県立総合教育センター

- 調査研究事業充実
- 「出前講座」等、学校教育支援（カリキュラム支援センターの機能）の充実
- 教職員の長期・短期研修の充実、法定研修及び経年研修の充実

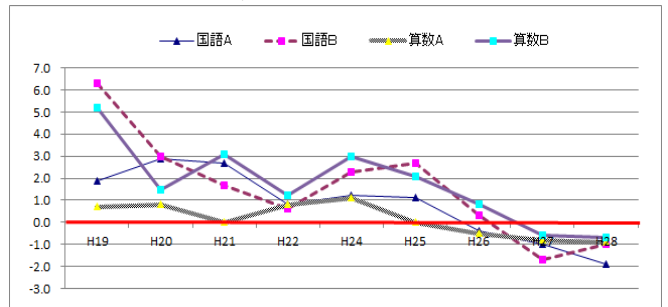
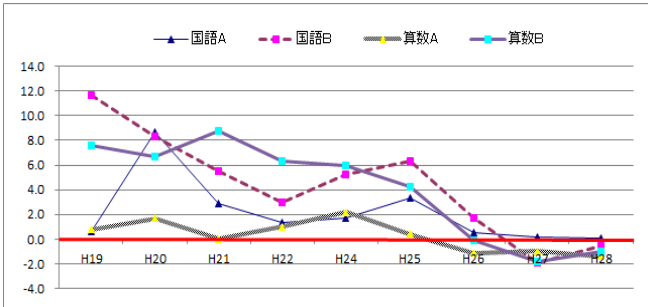
(3) 各市町村教育委員会

- 授業改善に係る学校支援訪問・各種研修会等の実施
- 「社会に開かれた教育課程」の実現に向けた支援

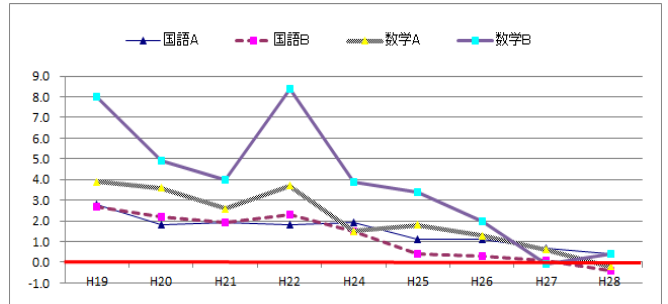
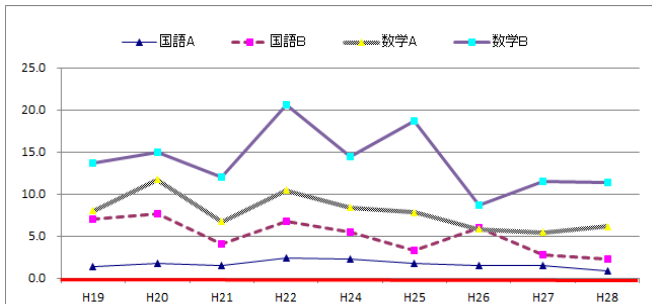
V 参考データ

本県小中学校児童生徒の学力は改善傾向にある。同様に、高校進学率、大学進学率等も改善傾向にある。

◎全国学力・学習状況調査（小学校）4科目 平成19年から平成28年までの推移
「本県と全国の正答率30%未満の差」

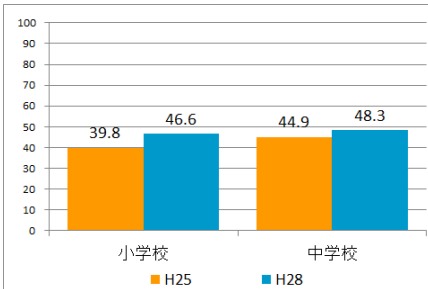


◎全国学力・学習状況調査（中学校）4科目 平成19年から平成28年までの推移
「本県と全国の正答率30%未満の差」

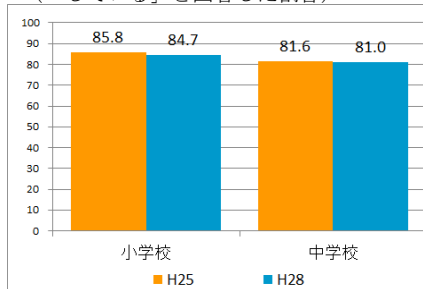


◎全国学力・学習状況調査（小学校・中学校）3項目 平成25年と平成28年との比較

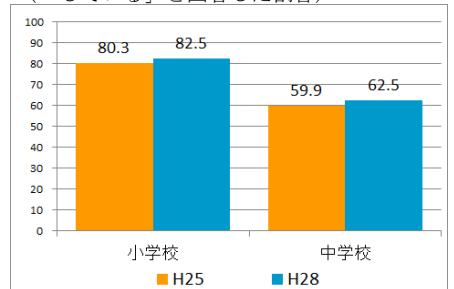
普段（月～金曜日）の、就寝時間
（小学校：22時前就寝、中学校：23時前就寝）



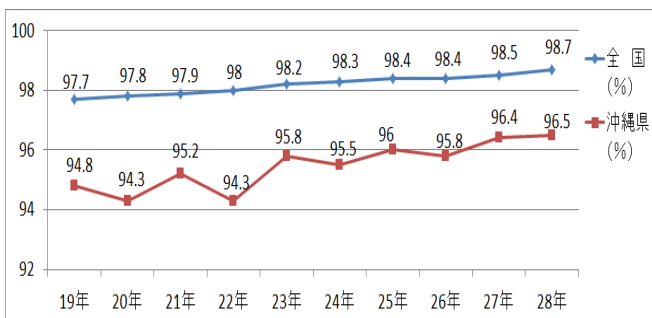
朝食を毎日食べている
（「している」と回答した割合）



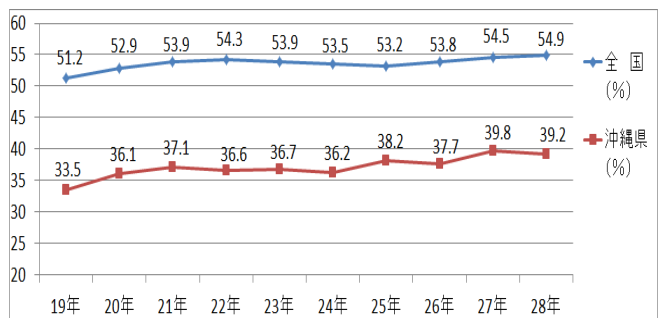
家で、学校の宿題をしていますか
（「している」と回答した割合）



◎高校進学率
全国と沖縄県の平成19～28年までの推移



◎大学等進学率
全国と沖縄県の平成19～28年までの推移



VI 参考資料



【わかる授業 Support Guide】

授業における基本事項		資料1
授業前 <input type="checkbox"/> 授業前の学習用具の準備と、教員自身の整理整頓 <input type="checkbox"/> 授業開始・終了時刻の徹底 <input type="checkbox"/> 学習態度(話す・聞く等)の確立	授業前での準備を整えておくことで、授業に集中しやすくなります。 授業開始・終了時刻の徹底により、授業の進めやすさやメリハリがつけやすくなります。 学習態度の確立により、授業の進めやすさやメリハリがつけやすくなります。	授業前での準備を整えておくことで、授業に集中しやすくなります。 授業開始・終了時刻の徹底により、授業の進めやすさやメリハリがつけやすくなります。 学習態度の確立により、授業の進めやすさやメリハリがつけやすくなります。
授業中 <input type="checkbox"/> 身に付けさせたい力を踏まえた「あえて」の設定・提示 <input type="checkbox"/> 「あえて」止まった「まどめり」の活用 <input type="checkbox"/> 「なぜ?」「どう考える?」など、児童生徒の思考を促す質問 <input type="checkbox"/> 学習のねらいに迫る、意図的・計画的な発問	身に付けさせたい力を踏まえた「あえて」の設定・提示により、児童生徒の思考を促す効果があります。 「あえて」止まった「まどめり」の活用により、児童生徒の思考を促す効果があります。 「なぜ?」「どう考える?」など、児童生徒の思考を促す効果があります。 学習のねらいに迫る、意図的・計画的な発問により、児童生徒の思考を促す効果があります。	身に付けさせたい力を踏まえた「あえて」の設定・提示により、児童生徒の思考を促す効果があります。 「あえて」止まった「まどめり」の活用により、児童生徒の思考を促す効果があります。 「なぜ?」「どう考える?」など、児童生徒の思考を促す効果があります。 学習のねらいに迫る、意図的・計画的な発問により、児童生徒の思考を促す効果があります。
授業後 <input type="checkbox"/> 児童生徒の理解が深まる、整理的な説明 <input type="checkbox"/> 児童生徒の学習状況に即した、具体的な的確な指示 <input type="checkbox"/> 児童生徒の理解を助ける教員やIT機器の効果的な活用	児童生徒の理解が深まる、整理的な説明により、児童生徒の理解が深まる効果があります。 児童生徒の学習状況に即した、具体的な的確な指示により、児童生徒の理解が深まる効果があります。 児童生徒の理解を助ける教員やIT機器の効果的な活用により、児童生徒の理解が深まる効果があります。	児童生徒の理解が深まる、整理的な説明により、児童生徒の理解が深まる効果があります。 児童生徒の学習状況に即した、具体的な的確な指示により、児童生徒の理解が深まる効果があります。 児童生徒の理解を助ける教員やIT機器の効果的な活用により、児童生徒の理解が深まる効果があります。
授業後 <input type="checkbox"/> 児童生徒が考えをまとめる時間を確保 <input type="checkbox"/> 学習のねらいの達成に向けた学習活動の設定 <input type="checkbox"/> 児童生徒の思考過程に沿った、構造的な指導 <input type="checkbox"/> 児童生徒の思考の足跡が見えるノート指導	児童生徒が考えをまとめる時間を確保することにより、児童生徒の思考がまとまる効果があります。 学習のねらいの達成に向けた学習活動の設定により、児童生徒の思考がまとまる効果があります。 児童生徒の思考過程に沿った、構造的な指導により、児童生徒の思考がまとまる効果があります。 児童生徒の思考の足跡が見えるノート指導により、児童生徒の思考がまとまる効果があります。	児童生徒が考えをまとめる時間を確保することにより、児童生徒の思考がまとまる効果があります。 学習のねらいの達成に向けた学習活動の設定により、児童生徒の思考がまとまる効果があります。 児童生徒の思考過程に沿った、構造的な指導により、児童生徒の思考がまとまる効果があります。 児童生徒の思考の足跡が見えるノート指導により、児童生徒の思考がまとまる効果があります。
授業後 <input type="checkbox"/> 一律性時間で完結する授業の徹底	一律性時間で完結する授業の徹底により、授業の進めやすさやメリハリがつけやすくなります。	一律性時間で完結する授業の徹底により、授業の進めやすさやメリハリがつけやすくなります。

【授業における基本事項】

【指導の努力点 (リーフレット版)】

【授業振り返り3点ツール】

授業プランシート		資料4
1	本時のねらい(「あえて」(身に付けさせたい力を踏まえた設定・提示))	
2	本時の評価観点(思考力・問題解決力) (本時のねらいが実現された子どもの姿は)	
3	評価観点と評価方法 (どの観点で、どのように評価するのか)	
4	本時のねらい(「あえて」)の達成状況(「あえて」の達成状況、振り返りを行うのか)	
5	本時のねらい(「あえて」)の達成状況(「あえて」の達成状況、振り返りを行うのか)	
6	板書計画 資料の活用状況(板書等)も記入する	
7	授業者の評価(感想)	

【授業プランシート】

【「家なれ」運動展開中!】

【教材研究ノート】

教材本文の範疇をききながら、形式段階に書きうつす。

めあて学習の見直しを待とう。

◇スポーツ新聞 ふつう紙 小中学生向け新聞の一面
見出しが大きく書かれている。
写真やイラストがたくさん使われている。
カラフル

○この単元で何をどうかんばりたいか、くわしく知り
いこと。(三行以上)

単元名(知って) これであなな情報通
ゴール(新聞コンテストで知って) 新聞を絶えず紹介しよう

第1時	見出しをとり取り組みをしよう。
見出しをとり取り組みをしよう。	見出しをとり取り組みをしよう。

自己評価
相互評価

音読一回
難解語句の意
味調べ(五五)

小学校・国語科の例

平成二十八年六月七日(火)

係活動への協力を呼びかけるチラシを作る。
めあて 収集したチラシの表現の特徴とその効果について
考えよう。

○集めてきた複数のチラシを読んで、表現の工夫とその効果についてまとめるよ。

表現の工夫

- 写真や絵などを入れる。
- 色を多用する。
- 大きな文字で目立たせる。
- 目立つように書く。
- 内容が理解しやすくなる。
- 読みやすくなる。
- 目立つように書く。
- 内容が理解しやすくなる。
- 読みやすくなる。

効果

- 一目でわかる。
- 文章だけでなくわかりやすく内容を理解しやすくなる。
- 読みやすくなる。
- 目立つように書く。
- 内容が理解しやすくなる。
- 読みやすくなる。

項目立てて
書き進める

必要情報を探そう。
覚えやすい。

めあて
みんなが持ち寄りチラシを読んで写真や絵などを入れる表現の工夫をするよ。多くの人の興味をひくよ。表現の工夫によって様々な効果があるよ。わかった。

振り返り
「だいたい運動のチラシを作ろうと思ってるから写真や絵を入れて読む人が目でわかるようにしたい。」
「めあての時間にどうせよせよってめあては達成できた。」

中学校・国語科の例

江戸時代の村や町は住む人々や物のまわりをくらしまわって出来た。

身分の上下関係
(男) > (女)
④ 五人組 (異国関係)
⑤ 町奉行 (幕府関係)

政治の中心地…江戸
幕府のおひきまち

全国の産物が集まる、経済の中心地…大阪(天下の台所)

平家時代以来の都…京都
伝統的産業の中心

① 政治の中心地…江戸
幕府のおひきまち

② 全国の産物が集まる、経済の中心地…大阪(天下の台所)

③ 平家時代以来の都…京都
伝統的産業の中心

小学校・社会科の例

10月20日(火)2/8時

① 小数の乗法で「わり算の逆算」が成り立つことを理解する。
② 小数の乗法で「わり算の逆算」が成り立つことを理解する。

① 4.2 × 0.25 = (4.2 × 4) ÷ (0.25 × 4) = 16.8 ÷ 1 = 16.8
② 4.2 × 0.25 = (4.2 × 4) ÷ (0.25 × 4) = 16.8 ÷ 1 = 16.8

③ 4.2 × 0.25 = (4.2 × 4) ÷ (0.25 × 4) = 16.8 ÷ 1 = 16.8

④ 4.2 × 0.25 = (4.2 × 4) ÷ (0.25 × 4) = 16.8 ÷ 1 = 16.8

⑤ 4.2 × 0.25 = (4.2 × 4) ÷ (0.25 × 4) = 16.8 ÷ 1 = 16.8

⑥ 4.2 × 0.25 = (4.2 × 4) ÷ (0.25 × 4) = 16.8 ÷ 1 = 16.8

⑦ 4.2 × 0.25 = (4.2 × 4) ÷ (0.25 × 4) = 16.8 ÷ 1 = 16.8

⑧ 4.2 × 0.25 = (4.2 × 4) ÷ (0.25 × 4) = 16.8 ÷ 1 = 16.8

⑨ 4.2 × 0.25 = (4.2 × 4) ÷ (0.25 × 4) = 16.8 ÷ 1 = 16.8

⑩ 4.2 × 0.25 = (4.2 × 4) ÷ (0.25 × 4) = 16.8 ÷ 1 = 16.8

小学校・算数科の例

【板書型指導案】

中学校・国語科の例

「小学校立憲年四冊板書型指導案」

平成二十八年九月〇日(日)

係活動への協力を呼びかけるチラシを作る。
めあて 収集したチラシの表現の特徴とその効果について
考えよう。

○集めてきた複数のチラシを読んで、表現の工夫とその効果についてまとめるよ。

表現の工夫

- 写真や絵などを入れる。
- 色を多用する。
- 大きな文字で目立たせる。
- 目立つように書く。
- 内容が理解しやすくなる。
- 読みやすくなる。
- 目立つように書く。
- 内容が理解しやすくなる。
- 読みやすくなる。

効果

- 一目でわかる。
- 文章だけでなくわかりやすく内容を理解しやすくなる。
- 読みやすくなる。
- 目立つように書く。
- 内容が理解しやすくなる。
- 読みやすくなる。

項目立てて
書き進める

必要情報を探そう。
覚えやすい。

めあて
みんなが持ち寄りチラシを読んで写真や絵などを入れる表現の工夫をするよ。多くの人の興味をひくよ。表現の工夫によって様々な効果があるよ。わかった。

振り返り
「だいたい運動のチラシを作ろうと思ってるから写真や絵を入れて読む人が目でわかるようにしたい。」
「めあての時間にどうせよせよってめあては達成できた。」

小学校・算数科の例

第4学年 算数科 板書型指導案

平成28年7月15日(金)

指導者 ○ ○ ○

小教(1/100)の必要性と表し方を理解し、その読み方・書き方を知る。

【めあて】
目盛りが合わない水の量を表す方法を考えよう。

【問題】
やんに入っている水のかさを調べたら、次のようになった。この水のかさは何リでしょうか。

【まとめ】
目盛りが合わない水の量を表す方法は、さらに細かい目盛りを付けよう。
・0.1Lを10等分した1つは、0.01L

【振り返り】
今日の学習の振り返り。

日々の授業の充実を通して

ある日、ある学校の授業の様子から……

～自治意識の育ち～

始業のチャイムが鳴る前、係の生徒がみんなに声をかけ入室を促している。学習委員は宿題の点検を済ませ、自分の席に向かう。教師はすでに教室に入り学習環境を点検している。生徒会組織と学級組織が連動しているこの学校においては、生徒会で決めた「始業2分前の入室と授業の準備」が徹底されている。「教科書が用意されていない人がいるよ」の級長の言葉に生徒達は速やかに机を整える。心地よい緊張感に自然と背筋が伸びる。

授業開始の号令がかかり、始業チャイムが流れ出す。日々、学びに向かう集団が育っていく。

～校内研究の成果が日常の授業に反映～

教材に対する興味関心を教師の問いかけが高めている。生徒の言葉をもとに「めあて」が設定され、提示される。

生徒達は、教師の主発問に対して「う～ん」と唸りながらも懸命に考えている。導き出した自分の考えをノートに言語化する。指示された時間内にすらすらと文章にする。観点や条件を確認しながら自分の言葉を紡ぎ出す。校内研究の実践テーマである「書く活動の充実」が日常の授業に生きている。

～対話を通し学ぶ～

書いたことをもとに生徒はペアやグループでの対話活動を行う。根拠を示し自分の考えを伝える。他者の考えを聴き、取り入れながら、自分の考えを広げる。活動が深い学びにつながっていく。対話活動の間、教師は生徒のノートを確認したり、生徒の発言を広げたり、板書したりといった支援はするが、多くは語らない。教師の指示や説明で生徒の思考が途切れないように心掛けていることが伝わってくる。



～生徒指導の三つのポイントが生かされた授業により生徒の自己肯定感が高まる～

この学級では、安心して自分の思いや考えを伝えることができる。支持的な風土が醸成されている。生徒指導の三つのポイントが生かされた授業が日々展開されているからだ。そのため生徒の自己肯定感が高い。主体性が育ち、教師の手を離れても節度を欠くことがない。教師にはタイムマネジメントを意識するゆとりが生まれる。

授業終了10分前。教師は生徒の言葉を拾いながら丁寧に「まとめ」を行う。自分の思いや考えを話し、学級全体で承認されたことで、生徒の自己肯定感、有用感が高まっている。生徒の表情からそれがわかる。

～「揃える」ことの効果性～

残り3分で「振り返り」を書いている。生徒達から新たな疑問がこぼれ出す。

教師はそのつぶやきを拾い、「今日の授業を振り返って新たに生まれてきた疑問について、あなたなりの考えを書いてきて下さい」と宿題を課す。「まとめ」、「振り返り」、「授業と連動した宿題」が全ての授業で意識されており、しかもその方法が多彩だ。これは「幼小中連携」における「授業の徹底事項」の一つだという。

～嬉しい上司の言葉～

終了を知らせるチャイムとともに授業が終わった。その日、授業観察を行っていた校長は授業者に「発問がこんなに生徒達の思考を深めるものなのかと驚いたよ。生徒達が主体的に学ぶ姿も素晴らしかった」と賞賛のコメントを伝えた。生徒同様に教師の自己肯定感も高まった。



授業には課題もあった。発問が少し抽象的であったため、生徒の思考が拡散しすぎた。しかし、教師の生徒に対する思いや授業改善に対する熱意は十分に伝わってきた。何より生徒達の目が輝いていた。生徒間の「学力差」を感じさせない授業でもあった。

さらに、校内研究、幼小中連携、生徒会活動、授業と宿題の連動等の「揃える」取組がこの授業を支えていた。学校全体の組織的な取組が個々の教師の力を十二分に発揮させ、向上させているのである。こうした個々の教師の努力による「日々の授業の充実」が生徒達の確かな学力を育み「生きる力」へとつながっていく。本プロジェクトは、こうした教師の日々の努力を支える指針となるよう願い作成した。各学校においては、本プロジェクトの趣旨を御理解の上、日々の「授業改善」に生かして頂きたい。

本冊子は、発行部数に限りがあり、関係者全員に配布することができません。よって、学校及び関係機関におきましては、必要に応じて、沖縄県教育委員会（下記アドレス）からダウンロードして御活用下さい。

学力向上推進プロジェクト

発行日	平成28年12月
発行	沖縄県教育委員会
	義務教育課学力向上推進室
	〒900-8571 沖縄県那覇市泉崎1丁目2番2号
	TEL 098-866-2741 FAX 098-866-2750
WEBサイト	http://www.pref.okinawa.jp/edu/index.html
	(沖縄県教育委員会)
